



東京都・私立トキワ松学園中学校高校の取材は、同校の図書室で行いました。「探究女子」の知的好奇心に伴走する同室の躍動は、記事(P.10～12)の通りです。取材中に来室した生徒の話し声や衣擦れ、ページをめくる音も、「知の拠点」の静謐の一部でした。卒業時には、6年間の蔵書貸し出し記録が生徒一人ひとりに贈られるとのこと。そう、写真には写らないものも、青春に彩りを添えるのです。センター試験の直前演習で「デューク」(江國香織『つめたいよるに』所収)に出合った18歳の私は、その日のうちに図書室に駆け込んだのでした。

「読んできた本でどんな人かが分かる」(立花隆)、「重要なのは何を観たかではなく、いつ観たか」(岩井俊二)。いつ読んだどの本が私を形作ったのか。私を突き動かした衝動は何だったのか。もうすぐ読書の秋。書架を巡り、それら確かめようと思います。(河野)

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!



『VIEW next』のLINEを友だち登録していただければ、本誌の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届き、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』内の該当記事に、ダイレクトにアクセスできます。この機会にぜひ、友だち登録をお願いします!

【友だち登録の方法】上の2次元コードを読み取っていただくか、LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加してください。

VIEWnext

高校版 2023年10月号

10月16日発売

(予定)

『VIEW next』高校版は  
年6回の発刊です。

## Reader's VIEW

先生方からのご意見を  
紹介します

2023年6月号(創刊400号)へのご意見

## 「自分なら何ができるか」の視点を持つ生徒を育む

6月号の特集に掲載された学習院大学の秋田喜代美教授と3人の若者との対話の記事において、立崎乃衣さん、伊関佳純さん、清水陸志さんの取り組みを読み、「自分なら何ができるか」という視点の大切さを実感した。これからの社会では、その視点を持っている人こそが活躍し、社会を変えていけるのだと思う。我々高校教師は、そうした視点を生徒が持てる仕組みや雰囲気づくりをしていかなければならないと痛感した。一方で、学校や高校教育をよりよくしていくためには、1人の教師として何ができるのだろうかとも思ってしまう。まずは、自分自身の授業改善・生徒とのかかわり方の改善であると考えている。

静岡県・浜松市立高校 池谷 理

## 起立性調節障害について、自然な形で生徒に伝えたい

6月号の特集の学習院大学の秋田喜代美教授と清水陸志さんによる「対話3」の記事を読み、恥ずかしながら、内閣府認定特区高等学校という枠組みを初めて知った。起立性調節障害で悩んでいる生徒は多くおり、そのほとんどがかなり深刻に思い悩んでいる。そうした生徒がいる学校にとっては勇気づけられる記事だと思う。起立性調節障害について、自然な形で生徒たちに紹介する機会を持ちたい。

大分県立盲学校 堀 奈々絵

## 「創りたい社会」という視点の大切さ

6月号の特集を読み、「創りたい社会」という視点の大切さに改めて気づいた。教育に携わる者の根底には、この想いが必要だと思う。今回の特集は、教育の本質、あるいは原点を思い起こすものであった。若者との対談を切り口に教育論を深めている点もよかった。また、「課題1 学び続ける人材の育成」の岸ふみさんの実践の記事を読むまで、恥ずかしながら「グリーンウォッシュ」という言葉を知らなかった。探究学習の落とし穴に気づくとともに、「気づき」を豊かな学びにつなげた岸さんの姿に拍手喝采を送りたい気持ちに駆られた。

龍谷大学高大連携推進室 堀 浩司

## 「学校でこそできる学び」を考え続ける

6月号の「新課程レポート」の記事で静岡県立小山高校の美那川雄一先生が述べられていたことに共感した。私も、「学び方や学びの意味・目的など、生徒1人では深めることが難しい点を重視」した授業を構想したいと思った。特に、全日制普通科における「学校でこそできる学び」とは何かを、考え続けていきたい。

静岡県立下田高校 稲葉 涉

## ICT機器を用いた自由進度学習を実践したい

私自身が「教えない」授業を目指しているので、6月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された山口県立岩国総合高校の川端雄也先生の生物の実践の記事にあった、ICT機器を使って生徒が自由進度で学習する工夫が参考になった。この夏に研究して、2学期以降に実践したい。

東京都立調布南高校 徳武英人